

# 令和 7 年 度 入 学 試 験 問 題

## 外 国 語

### フランス語

150 点 満 点

《配点は、一般選抜学生募集要項に記載のとおり。》

#### (注 意)

1. 問題冊子および解答冊子は監督者の指示があるまで開かないこと。
2. 問題冊子は表紙のほかに 5 ページである。
3. 問題は全部で 3 題ある(1～5 ページ)。
4. 試験開始後、解答冊子の表紙所定欄に学部名・受験番号・氏名をはっきり記入すること。表紙には、これら以外のことを書いてはならない。
5. 解答は、すべて解答冊子の指定された箇所に記入すること。
6. 解答に関係のないことを書いた答案は無効にすることがある。
7. 解答冊子は、どのページも切り離してはならない。
8. 問題冊子は持ち帰ってもよいが、解答冊子は持ち帰ってはならない。

外国語（フランス語）については3題のうち，Ⅲのみ公開する。

**Ⅲ**

次の文章をフランス語に訳しなさい。

(50 点)

理解するとは、人であれ物であれ、その人やその物を理にかなった仕方を知る良い方法だとたいていは言われる。しかしながら、理にかなった仕方では、その人の人格なり、その物の本質なりを知ることには、暴力的なところはないのだろうか。理解するということは、唯一存在しているこの人やこの物を、その単独な在り方ではなく、ほかの人やほかの物と共通する一般的な在り方で捉えることだ。私たちがなにかを知ろうとする際に頼りとする概念や観念は、様々な在り方をする諸々の存在に当てはまるから役に立つ。的確な概念や観念をとおして諸々の存在を理解するのは、正しい学問だとされてきた。しかしながら、たとえそれが正しくても、この人やこの物が持っている単独のなにかは、理解では捉えられないまま、知それ自体のなかで忘却されてしまいがちだ。なにかを理解できるということは、たしかに人間の優れた能力である。が、それは武器であり、この至高の武器の前では、およそ存在するものはなんであれ、ほとんど抵抗することができないということを心得ていなければならない。

(上田和彦「分かりえないものに応える人文学」より)

問題は、このページで終わりである。